

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年1月18日】第69号



SDGsって？

SDGsのピンバッジをつけているのに気づいた子どもから、「何ですか？」「ドーナツのバッジかな？」と質問されることがあります。新学期になってからは、「知っているよ！」「パパもつけています」という声も聞きました。



ご存じのように、SDGsとは持続可能な開発目標のこと。誰ひとり取り残されることなく、人類が安定してこの地球で暮らし続けることができるように、問題の解決に向けて17の具体的な目標を示したものです。2015年に国連で採択され、日本を含めた各国が2030年を目指してこの目標を達成しようと合意しています。2030年といえば、1年生と2年生に在籍する農大稲花小の子どもたちが中高生になっているところです。遠い目標のようであり、緊急に達成しなくてはならない問題ばかりだということがわかります。

東京農業大学でもSDGsをテーマに、6学部23学科150を超える研究室の中の多くの研究室が、様々な取り組みを行っています(校長も、植物の病気の研究で、SDGsのGoal 2“飢餓をゼロに”の達成を目指して、熱帯の途上国における農作物の病気の研究をしていました)。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、日本に暮らす私たちも、その生活や命が必ずしも安全・安心でないことを改めて認識しました。農大稲花小の子どもたちには、SDGsの視点をもって将来の夢を描いてほしいと願っています。



交通安全について

子どもたちの安全と言えば、通学途中の交通安全はまず重要です。昨年末12月22日(火)に、世田谷警察署の警察官にお出かけいただき、横断歩道を渡るときや自転車に乗るときの注意や、道路や歩道でキックボードなどをしないようになどのお話をいただきました。小学生であっても、自分の命は自分で守ることを心がけなくてははいけません。制服姿の警察官には校内テレビで全児童にお話しいただいたあと、ごく短い時間でしたが各教室で子どもたちにお声をかけていただきました。子どもたちも引き締まった表情になったようです。季節によっても、時間帯によっても、道や交通機関の状況は変わります。ご家庭でも時々、通学路の様子を確認したり、児童と交通安全について話をする機会を設けていただきたいと思います。また、本校の許可を得てキッ

ズ携帯を利用している児童については通話履歴を確認し、通学中の歩きスマホや公共交通機関内での通話、そのほか不適切な利用がないようにしてください。



周東選手からサインを

農業や食品産業をはじめとして、さらに生命科学など多岐にわたる現場で東京農大の卒業生(校友)が活躍しています。活躍する分野は広く、スポーツの世界にも多くの校友がいます。昨年は、校友でもある大相撲正代関から、農大稲花小の子どもたちにサインを頂いたことをご紹介しましたが、12月にはさらに、福岡ソフトバンクホークスの周東祐京内野手から、サインをいただきました。周東選手もスポーツで活躍する校友の一人で、50 盗塁の盗塁王、世界記録の 13 試合連続盗塁を記録して注目を集めています。

大活躍の陰にはたくさんの努力があるに違いありません。難しいこと、苦しいこと、嫌なことでも、最初からあきらめずにまずは頑張ってみるという気持ちは、どんなときにも大切でしょう。農大稲花小の子どもたちにも、頑張る姿勢について伝えていきたいと考えています。



自分で伝える

農大稲花小では、コミュニケーション力を養うことを大切に教育を行っています。自分の考えを伝えるだけでなく、人の話を聞いてその考えを理解する、知りたいことを教えてもらうなど、コミュニケーションにおいては、様々な場面があり、様々な力が必要です。コミュニケーションによって、自分とは違う他人の気持ちを理解できるようになることは成長における大切なステップと言えるでしょう。

1年生も2年生も、3学期にもなると、コミュニケーション力が少しずつ高まっているようです。学年の始まったころは、自分のことを一方的に話すだけだった子どもが、「校長先生は？」と逆に質問して来たり、週末の経験を思い出してわかりやすく話してくれたり、と会話も楽しくなってきました。ご家庭でも、言語能力の高まりを感じておられるのではないのでしょうか。

子どもたちのちょっとしたトラブルについても、同様です。本人も、周囲の友だちも、徐々に、何が起きたのかを客観的に説明できるようになってきています。自分の気持ちを説明した

り、相手の気持ちを聞き取ることができる子どもに育ってきているのです。もちろん、低学年ですから、感情が高ぶって説明できなかつたり、残念ながら先に手が出てしまう子どももいないわけではありませんが、それも成長の一つの段階です。

困ったことがあったとき、何かトラブルがあったようだというとき、ご家庭でも子どもの言葉をお聞きいただき、ゆっくりと向き合っていただくようお願いいたします。その上でぜひ、「明日、学校で先生に相談してごらん」「自分の気持ちを、自分で先生に話してみたら」と励まして送り出してください。学校でも、子どもからの説明をじっくりと聞き、その気持ちをしっかりと受け止めてまいります。

タンザニアメニューの給食

1月15日(金)の給食は、東アフリカに位置するタンザニアのメニューでした。東アフリカの国々ではアラビア世界の影響を受けて、お米を食べる習慣もあり、給食でもチキンピラウ(ピラフですね)が供されました。そのほか、バナナを使った揚げ団子も登場し、人気だったようです。校長は、タンザニアと隣国のウガンダで何回か稲作支援を行った経験があることから、タンザニアの農村で、人々と一緒に撮影した記念写真も、給食時間に紹介されました。

タンザニアやウガンダの主食は、搗いたバナナ、餅のようにしたトウモロコシ(ウガリ)、キャッサバなどのイモ類です。しかし、昔は行事のときだけしか食べられなかった米食が、稲作の普及で一般的になり、今では普通のレストランでも注文すれば食べることができます。また、タンザニアでは、牛を連れて歩くマサイ族の人たちに出会うことができました。子どもでも上手に牛を誘導しているのには驚かされます。昔ながらの生活をしているように見えるマサイ族の人たちですが、携帯電話の普及率は意外に高いと聞きました。

タンザニアのメニューを味わった子どもたちは、アフリカにも興味をもってくれたでしょうか。農大稲花小の子どもたちは、毎日欠かさず英語の授業を受け、自宅でも20分程度の復習を重ねています。昨年行ったように東京農大で学ぶ留学生と交流したり、あるいは、オンラインでアフリカなど世界とつながる機会を作っていきたいと考えています。



タンザニア 牛を連れた少年



タンザニア ザンジバル島のピラウ